

## 令和元年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	I C Tを活用した小中連携プロジェクト
事業実施代表者名	校長 北 村 博 幸
実施附属学校名	北海道教育大学附属函館小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000 字程度で記述)	<p>本事業は、小中連携による「主体的・対話的で深い学び」の研究に資する ICT 活用の実践・検証を図るものである。</p> <p>本年度も、函館小学校・函館中学校は、情報活用能力育成に焦点をあてた研究実践を行っており、函館小学校の本年度重点は次の通りである。</p> <p>① プログラミング的思考の育成 ② プログラミング授業の構築【ペッパーの活用】 ③ タブレット PC を活用した授業実践 ④ 情報モラル・情報安全教育の推進</p> <p>上記①～④それぞれの取組内容は次の通りである。</p> <p>① 思考を構造化，フローチャート化することにより，思考の流れや見通しをもって学習を進めるプログラミング的思考について実践化し，研究大会で公開・還流した。</p> <p>② ペッパーを活用したプログラミング授業を実践し，研究大会での公開・還流を行った。また，プログラミング授業の構築について研究交流校にて本校教諭を講師とした研修会を開催し，地域公立学校への研究波及に努めた。</p> <p>③ 「調べ学習」「画像を生かした図工」「動画での相互評価」「番組作成」「計算練習」など，情報収集・発表物作成・評価・個別学習といった ICT 機材活用による多様な学習の実践化を図った。</p> <p>④ 「スマートフォン等の安全教室」「SNS いじめ，情報安全教室」を高学年対象に開催した。保護者からの要望・期待も高く，児童も身近な問題として課題意識を強くした。</p> <p>現在，iPad は全部で 60 台ほどあり，ほぼ学年の学習に対応できる状況となっている。児童用ノート PC の配置と併せ，さらなる活用方法の実践化を目指したい。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「どの様な学習場面で ICT 機器の活用が効果的か」を実践・検証する機会を多く行い、提案することができた。</li> <li>○ プログラミング授業の提案・公開をしたことで、実際の授業を目にして協議できたこと自体の成果が大きい。</li> <li>○ プログラミング教育のあり方について不安を抱いている公立学校が多く、本校の研究発信がプログラミング教育を身近に感じ、実際のあり方の提案が各校での実践化へつながっている。</li> <li>○ ICT 機器を様々な学習機会を活用できる可能性を広げることができた。学習の充実化・発展性・個別化など、ICT 活用による学習目的が明確になってきている。</li> <li>△ ICT 機器の活用が頻回になるにつれて、iPad の台数が不足することが多くなってきた。</li> <li>△ 情報モラル・情報安全教育の充実を図っているが、本校でもメール等による生徒指導上の問題がいくつか見られるようになっている。安全教室や指導の場の回数増や対象学年の拡大、保護者への啓発など、さらに拡充する必要がある。</li> </ul>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラミング教育実践についての授業公開や研修の場開設への期待は大きい。研究大会やセミナーだけでなく、研究交流及びプログラミング教育に特化した研究会の開催を視野に置きたい。</li> <li>・ 児童による「自己評価」「相互評価」を行うために ICT を活用する機会が飛躍的に増えそうである。画像や動画等を評価対象とするだけでなく、授業内、場面毎の児童の思考過程や目的意識の変化など、ICT 活用による評価のあり方について研究を進めたい。</li> <li>・ ICT 機器の活用が円滑に行われるよう、ICT 機器の増量・補充と更新を行う必要がある。</li> <li>・ 情報モラル・情報安全教育に力を入れ、専門的人材を招聘した講演会を核に、保護者と連携し、年間を通した計画的な取組を継続する必要がある。</li> </ul>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校研究大会 (R1.7.26 HP にて)</li> <li>・ 授業力向上セミナー (R2.2.14 HP にて)</li> </ul>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。